

第3章 デザインコンセプトとデザイン方針

3-1 デザインコンセプト

「3つのコンセプト」 ・「イメージストーリー」

「デザインコンセプト」は、小田急線上部に整備する区施設のデザインにおいて踏まえるべき基本的な考え方をまとめたもので、区民参加による「小田急線上部利用デザインワークショップ」により導き出されました。

目指すべき将来像を表現した「3つのコンセプト」から成り立っており、その中には、コンセプトを象徴する「6つの視点」が含まれています。

また、コンセプトをより明確にするため、ワークショップやアンケートにより抽出したキーワードを基に、趣旨をわかりやすく表現した「イメージストーリー」を添えています。

3-2 デザイン方針

「デザイン方針」は、施設整備の中で「デザインコンセプト」を実現していくため、具体的な方策の実施にあたって考慮すべき方針を示しています。

「デザインコンセプト」に含まれる「6つの視点」に沿って、「デザイン方針」をまとめています。

コンセプト 1

自然を感じる空間

人々の集い

『四季を感じ、みんなにやさしい空間が、 多様な人々をつなぐ』

これまで電車が走っていた鉄道敷に、季節の彩りと潤いをもたらされます。四季を知らせる木々や草花が、私たちをホッとさせてくれます。集まって賑わいを楽しむ人も穏やかに散歩したり静かに物思いにふける人も、老若男女の誰もが一年を通じて安心して心地よく過ごすことのできる空間です。

人に馴染みやすい形や大きさを“ヒューマンスケール”と呼ぶことがあります。私たちに安心感をもたらすやさしい心づかいがデザインのそこそこに散りばめられています。通勤通学、買物や散策で過ごすひとときが楽しい場所となるように、きめ細やかな配慮がなされています。そしてここでは、個性豊かな様々な人々のふれあいや出会いが生まれます。



方針 1

自然を感じる空間

- 四季の彩りと変化に溢れ、自然が醸し出す潤いを感じられること
- 1年を通じて誰もが心地よく過ごせること

方針 2

人々の集い

- ヒューマンスケールを尊重し、訪れる人々に安心感をもたらすこと
- 賑わいと落ち着きを創出し、人々のふれあいを生み出すこと

コンセプト 2

街の記憶

街の風景

『街の記憶や風景を映し、3駅につづく 新たな路が、私たちの地域をつなぐ』

街にはそれぞれ人々の暮らし方があります。鎌倉街道やお社、祠（ほこら）などが伝える歴史の面影、今に続く賑やかな街並みと落ち着いた住宅地の佇まい、さらに現在も多くの人々を運び続けている小田急線の線路としての記憶も大切にされています。

それらが街に独特の風景を生み出してきました。

東北沢駅、北沢駅、世田谷代田駅を結ぶ新たな路には、地層のように折り重なった周辺の街の記憶が映し込まれています。この街で暮らした人たちの知恵を現代に活かしつつ、あたたかみ“都市の中の回廊”のように結ばれ、3つの駅から広がる3つの地域に新たな街の風景が創られます。



方針 3

街の記憶

- 地層のように折り重なった周辺の街の歴史や記憶を取り込むこと
- 多くの人々を運び続けている線路が敷かれていた思い出を残すこと

方針 4

街の風景

- 賑やかな街、落ち着いた街、それぞれの街並みや佇まいを映し込むこと
- 3つの地域を結ぶ“都市の中の回廊”により新たな街の風景を創り出すこと

コンセプト 3

空間の変化

市民の関わり

『みんなで創り育て、ゆるやかに変わる 場所が、時を超え心をつなぐ』

街を見守り、将来にわたって関わり続けたいという人々がいます。その想いを子どもたちに伝え育てたいという人々がいます。小さい頃の思い出が、大きくなった時にも懐かしく思い出せるように、人の成長に合わせて少しずつ変化していく流れを大切に、時間をかけてゆっくりとまちづくりが進められています。

新たな街に人々が集まり、キラッと光る場所や活動があちこちに見られます。温かく育まれたみどり、個性を伝えるアート、ふれあいを深めるイベント、その主人公は私たちみんなです。そして、一つひとつの活動の積み重ねが地域の文化となり、次の世代、その次の世代まで、尊い想いをパトタッチしていきます。



方針 5

空間の変化

- 世代が変わっても魅力を失わず、時間をかけてゆっくりと変化していくこと
- 人々の活動の積み重ねが地域の文化となり、それが形になって表れること

方針 6

市民の関わり

- 街を見守り育て活動の場となり、尊い想いを次の世代に伝えられること
- キラリと光る活動が場所に活力をもたらし、集まるみんなが主人公であること